

## ～ 留学生招待のお茶会 ～

工業会事務局

「留学生招待お茶会」が、11月9日に国重要文化財彦部屋敷で開催されました。参加者は55名で、そのうち留学生は25名。その中から4名の留学生に感想を書いてもらいました。

## 知能機械創製領域 博士前期課程 1年

## イルファ アジ プラヨギ (インドネシア)

Hikobe house has a strategic place so the scenery is very beautiful, especially the hills or garden near the house. I am very impressed with the Japanese people related to maintain and preserved their cultural heritage. The house is look well maintained although it was built since edo period.

I hope this heritage will always be preserved. The activity is also interesting, even though I don't understand the nihongo since the speaker speak fast. However, I can still enjoy the ocha and I was understood make some Japanese handicraft using a natural dye. In conclusion, it was very interesting and fun.

## 情報工学科 4年生 ナガウ・ハイリアング (カンボジア)

群馬大学に編入してからはじめてこんなにきれいな場所に行きました。自然の景色がきれいなだけでなく、お茶会をはじめ、歴史や色染めなど日本の代表的な文化に触れ合うことができ、非常にすばらしい経験だと思います。緑の森の中で美しい琴曲演奏を聴き、まるで天使の歌のようだと感じました。

## 電気情報理工学科 研究生 姜 日晨 (中国)

まずは、彦部家住宅の様式を見て、前に中国西安に住んでいた頃に行った半坡遺跡博物館への旅のことを思い出しました。半坡遺跡は中国での新石器時代（約6000年前）の仰韶文化に属する典型的な母系氏族集落遺跡です。当時私は遺跡とその復元した屋敷の動画を見ました。そしてそれと今回見た彦部家住宅に似たところがあるという印象を持ちました。屋敷や庭園も綺麗に保存されていることに感心しました。琴演奏もすごく日本らしく、でも私は日本伝統音楽への知識が少ないため、味わうとまではいかず残念でした。そのあと、茶道の基本知識を教えてください、「一期一会」の意味を再確認しました。また、ハンカチを

染めたことを通じて、桐生は絹織物の産地ということを実感しました。

最後に、こんなにいい秋の思い出が出来、皆様に心より感謝します。

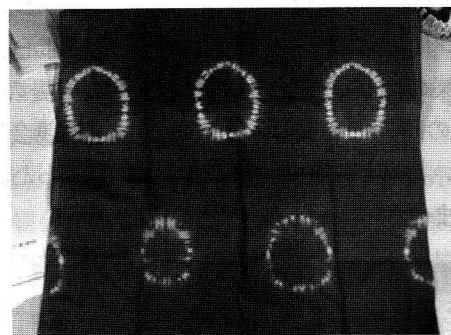
## 電気電子工学科 交換留学生 劉 雨航 (中国)

とても有意義な一日だった。お茶会の他、染めとお屋敷の見学もたのしかった。

彦部屋敷は風格もいいし、ガイドしてくれた方もとても親切で、屋敷の歴史、各部分の機能もきちんと説明してくれた。屋敷の竹林もとても気に入って、「流し素麺を食べたいな」って不意に思った。そのあとの琴も素晴らしかった。たしか弾く人は「さくらさくら」というていたが、想像と全然違う複雑な曲だった。でもとてもハーモニーが良く、上手かった。

お茶会は前にも体験したが、今回の茶会の方が気分がもっとリラックスできた。「亭主」はとても控え目で、お茶の流派と礼儀を紹介してくれた。前に参加したお茶会は学生同士がお互いにお茶を入れたが、正直に言うと、今回の方がもっと美味しかったし、お菓子は甘くて、旨かった。

染めといえば、やっぱり藍染めだ！色はちょっぴり深くて、たぶん染料に入れるのが早かったせいかな。面白い体験でしたが、残念なことにあんまり上手くできていなかった。



「これは何かのシンボルですか？」と聞かれたら、きっと答えられないと思う。「僕にきかないでください！」としか言えない模様だった。五輪に似てる？あぁ、もう一つの糸を縛ったら良かったのに。これは理系学生の想像力の極限のかな？

ちょっと寒かったですが、楽しい一日でした！